

手紙・壁新聞交流から繋がった学校見学	(2) 小学校との連携・交流
公立保育所	幕張第2保育所
<実施時期>	9月～11月
<幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に繋がる部分>	
「健康な心と体」「共同性」「思考力の芽生え」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」	
<活動のきっかけ>	
<p>小学2年生の授業の「町探検」で、毎年数名の生徒の保育所訪問があり質問を受けていた。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策で訪問が中止になった為、子ども達からの質問書を受け、回答をする形になった。保育所から小学校へのアプローチとして「例年同様の交流や学校見学ができないのであれば写真を撮らせてもらい壁新聞にして学校を見せてあげたいのでお願いできないだろうか」など教師と保育士のやり取りが最初のきっかけではあったが、年長児も小学生が近隣見学を行い、保育所前を手を振りながら通り過ぎてくれたことで小学生に興味を持ち、「学校のお兄さんお姉さんに聞いてみたい事がある」という声が聞かれた為、保育所側も質問をまとめ、回答をお願いすることになった。</p>	
<活動のねらい>	
学校に興味・関心を持ち、就学を楽しみにする。	
<経験する内容>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校に聞いてみたいことを考える。(自分で考えたり友達や家族と一緒に考えてみる) ・考えたことを友達の前で発表したり友達の話聞く ・小学生から貰った、学校への質問への返事(壁新聞)を見たり読んだりし、保育所との違いに気付いたり小学校を知ること、さらに興味を持つ。 ・自分が出した質問への返事に喜び、内容を理解する。 ・文字や数量などに関心を持ち、お礼の気持ちを絵や手紙にしたり、折り紙を折って飾りつけをするなどして表現し作成する。 ・学校までの往復を元気に歩き学校見学を楽しむ。 	
<新型コロナウイルス感染症に対する活動の工夫>	
<p>実際に顔を合わせながらの交流はできなくても「文書交流」や「壁新聞での交流」を行った。感染対策(密を避ける、マスク着用、手指消毒)を講じながら、できることを学校側と共に考える中で、結果的に学校見学も少人数、短時間の中で実施した。(見学時は小学生との接触がないようにする。年長児を2グループに分け1グループが校内を見学している間、2グループは校庭の離れた場所から体育の時間を見学し20分程度で交換するなどの対策を行った。)</p>	
<活動の内容>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校への質問に対し壁新聞で回答があったことで、お礼の気持ちを伝える為に壁新聞を作成した。 ・小学校見学は2グループに分かれて行き、校内見学ではどんな部屋があるのか、実際の授業の様子を廊下から見たり、校庭ではその広さに驚きながら体育の授業を見学した。小学校側がとても協力的で、見学時には校長先生も出迎えて声を掛けて下さり案内説明も教師がおこなって下さったのでより真剣に聞くことができた。 	

- ・校内の写真だけでなく、見学の際保育所との違いを感じながら興味深気にみている子ども達の姿も含めて壁新聞を作成し、子どもにも保護者にも見える廊下に掲示した。

＜活動でみられた子どもの姿＞

- ・質問したことが素敵な壁新聞となって届くと、「わーすごい。」と手を叩いて友達と喜び合っていた。一つ一つの質問と返事を読みあげると目をキラキラさせながら、真剣な表情でよく話を聞いていた。読み終わると自然に拍手が沸き上がり嬉しい気持ちが伝わってきた。「あがとうのお返事を書きたい！」と一人一人がその思いを絵と文字で書き壁新聞を作成した。文字に興味のなかった子も「お手紙自分で書きたい！」と保育士と一緒にひらがな表を見ながら一生懸命に仕上げている。
- ・小学校見学時には、疑問に思っていたことや答えを実際に見ることができ「わー本当だ。」と興味津々であった。授業の様子やお兄さんお姉さんに声を掛けられ教えてもらったことで小学校への期待が膨らんだ。

＜環境構成・教材や保育者の援助等＞

- ・学校からの壁新聞は、廊下や懇談会時に張り出し、保護者に見てもらえるようにしたことで、親子で会話しながら見ている様子も多くあった。お礼のお手紙は子ども達から同じようなものが作りたいとリクエストもあり、壁新聞にし届けることにした。
- ・一人一枚書くことで一人一人の思いが表現できるようにした。周りには折り紙を折って飾りつけも楽しみ出来上がったものを見て「いいね！早く渡しに行きたい！喜んでくれるかな？」と期待に胸が膨らんでいた。
- ・学校見学活動終了後は、見学している子どもの様子も入れながら壁新聞を作成し、廊下に掲示し振り返りながら就学を楽しみにできるようにした。



＜成果と今後の課題＞

- ・コロナ禍の中で、何もできないのではなく、お互いに「子どもにとって」を考え工夫しながら連携できたことは、ピンチをチャンスにかえる取り組みにも繋がったと思う。実際に顔を合わせながらの交流はできなくても「文書交流（壁新聞）」を通し、お互いを思いあう経験ができた。壁新聞をみて学校のイメージを持ちその後、実際に見学できたことで、より興味関心や就学への期待を高める事ができた。また親子で壁新聞を見て感想を話し合う姿にも取り組みの成果を感じた。例年通りできないからこそこの工夫は新しい取り組みへと繋げることができ、何よりも子ども達だけでなく教師と保育士が連絡しあうことが増え、連携がスムーズになった事も大きな成果だった。今後も思いを一つにして交流を深めていければよいと思う。

＜カリキュラムコーディネーターのコメント＞

「コロナ禍」によるさまざまな制限の中で、保育所の子どもと小学生双方が壁新聞を作り交流する過程で、小学校への興味関心や期待を高めるだけでなく、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の「言葉による伝え合い」や「豊かな感性と表現」等に関連するさまざまな経験にも繋がっていました。小学生の壁新聞に対する感謝の気持ちが自然と文字を書く活動を引き出すとともに、その後の小学校見学での気付きや喜びを深いものにしていました。「子どもにとって」を重視した連携の工夫が、コロナ禍であっても成果のある交流に結び付いたことを強く感じました。